

令和2年度 学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員会 委員長 武井 宗義

令和2年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

1 評価方法について

本校では、令和2年度の目標と重点取組（以下、2（1）から（6）ゴシック体にて表記）として6点を学校経営計画に掲げています。学校関係者評価委員会では、この6点について、杉並区教育評価や高井戸中学校独自の学校評価等の自己評価を確認した上で評価を実施しました。

2 重点目標とそれぞれの評価について

（1）生命や人権の尊重・・・道徳教育を通じたよりよく生きる力の育成「肯定的評価80%以上」

- ・心の教育や道徳教育の充実（アンネのバラの学校として）

【保護者】子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるために力が育まれている。

【教員】生徒は授業・生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
81.3%	73.4%	74.8%	59.4%	78.8%	84.4%	73.0%

ICT機器を活用し動画を見せたり、学年ごとにローテーション道徳を行ったりと工夫して道徳の授業を展開しています。生徒、保護者の肯定率で目標とする数値を超えたのは、2年生の保護者のみとなりました。2年生は学年通信の発行頻度が高く、保護者への情報発信量が多いことが肯定率の高さに結び付いていると思われます。次年度は、これまで実施してきた道徳授業地区公開講座における「アンネのバラ」の授業をはじめとし、生命や人権の尊重に係る道徳の授業が計画的に公開され、全学年の生徒及び保護者の肯定率が上がることを期待しています。

<改善を検討すること>

- ・道徳の授業をはじめ、人権教育や生命尊重に係る教育活動における保護者への情報発信方法を工夫すること。
- ・学校評価における質問内容を教員、生徒、保護者の三者でそろえること。

（2）信頼関係の構築・・・学校経営、学校生活全般、学級経営「肯定的評価80%以上」

- ・生徒と教師の絆、保護者・地域との連携、小中教職員

【保護者】子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
——%	——%	——%	——%	75.8%	83.1%	71.4%

達成目標として示した数値に、1・3年生は達することができませんでした。現3年生の昨年度の数値は68.9%であったため、若干ではありますが肯定率は向上しています。教育は人と人との営みであり、人と人との信頼関係の上で成り立っています。生徒と先生が信頼し合い、家庭・地域と学校が信頼関係で結ばれてこそ、教育は大きな成果をあげると考えられます。今後は、どの学年においても、保護者の肯定的評価が更に高まることを期待しています。

<改善を検討すること>

- ・学校経営、学級経営の状況を保護者の方々に確認していただけるよう、コロナ禍であっても工夫して学校を開くこと（学校ホームページ等の活用を含む）。

(3) 生活指導体制・進路指導の確立・・・安心・安全な学校生活「肯定的評価80%以上」

- ・基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚、いじめの克服、自己指導能力の醸成

(学級経営)

【保護者】学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。

【教員】学級活動や学校行事を通して、生徒の自己肯定感を育むための「居場所づくり」と「絆づくり」を意識している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
93.8%	85.2%	88.7%	82.1%	73.5%	83.1%	74.6%

生徒においては肯定率が全学年で目標数値である80%を超ましたが、保護者においては1・3年生の肯定率が70%台となりました。コロナ禍のため、学校公開を行うことができず、保護者会や学級懇談会も2学期に1回実施できたのみだったため、特に1年生の保護者においては、子どもたちの学校生活の状況を十分に把握できなかったことが考えられます。次年度に向け、3学期の保護者会、学級懇談会はオンラインでの実施を試行しています。この1年で得た「新しい生活様式」に係る経験を生かし、次年度は全学年において生徒、保護者とも80%以上の肯定率になることを期待しています。

<改善を検討すること>

- ・新型コロナウイルス感染防止対策が継続されても、学校公開等を工夫して実施し、状況に応じてオンラインを有効に活用すること。
- ・学校評価における質問内容を教員、生徒、保護者の三者でそろえること。

(生活指導体制)

【保護者】いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて教員が協力して取り組んでいる。

【教員】生徒理解を深め、組織的に不登校の予防、いじめの早期発見・解決に努めている。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
90.6%	71.9%	73.5%	61.9%	28.6%	33.8%	34.1%

教員と保護者の方々との肯定率が大きく異なる項目となりました。学校としては、未然防止、早期発見、早期解決のために、道徳の授業の工夫、ふれあい調査を活用した指導、校内委員会や生活指導部会での情報共有などをしているので教員の肯定率は高くなっています。生徒にも教員の取組は伝わっているので、7割前後の肯定率は示していますが、保護者に伝わっていないことは課題点であると捉えることができます。

<改善を検討すること>

- ・ふれあい（いじめ防止）月間の取組について、学校だよりや学校ホームページを通じて情報発信すること。
- ・保護者会や学級懇談会において、いじめや不登校などに対して取り組んでいる具体策を周知すること。

(4) 学力向上・・・学習成果の実感「肯定的評価80%以上」、「学習の適正な評価70%以上」

- ・確かな学力の獲得、授業規律の確立、スパイラル学習（既習事項を活かす）の推進
- ・新学習指導要領完全実施に向けた授業改善と適切な評価方法の研究

(学習成果の実感)

【保護者】子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。

【教員】授業改善を日々心掛け、生徒が学習内容を理解しやすいように工夫している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
93.8%	87.5%	85.4%	82.1%	73.5%	75.3%	65.9%

生徒においては、全学年で肯定率が80%を超え、目標を達成することができます。これは、教員による授業規律の徹底と授業改善との成果だと捉えることができます。ただし、学力が低位の生徒も一定数見られますので、個に応じた指導を充実させる必要はあると考えます。

<改善を検討すること>

- ・「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適化された学び」を推進し、生徒一人一人が学習の成果を実感できるようにすること。
- ・コロナ禍においても、保護者の方々が授業の様子を直接参観したり、オンラインで参観したりすることができるよう工夫すること。

(学習評価)

【保護者】学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。

【教員】生徒の学力や学習の達成度を適切に評価している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
96.9%	72.7%	86.0%	72.4%	66.7%	62.3%	48.4%

保護者の肯定率は70%に達しなかったものの、生徒は全学年で目標とする70%を超えることができています。これは、教員が「指導と評価の一体化」を意識した授業を展開し、生徒に対する評価のカウンセリング機能が働いた結果であると考えています。

<改善を検討すること>

- ・新学習指導要領完全実施に伴い、年度当初の保護者の方々への評価・評定に係るガイダンス機能の向上・充実を図ること。
- ・評価の妥当性を常に確保し、信頼性のある評価として実施するために、新学習指導要領完全実施に向け、評価規準を適切に設定すること。

(5) 特別支援教育の充実・・・特別支援教育への理解・啓発「肯定的評価70%以上」

- ・個に応じた適切な指導、高井戸学級の専門性を生かした交流や協働

(特別支援教育 研修・理解啓発)

【保護者】学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
——%	——%	——%	——%	23.5%	33.8%	31.0%

特別支援教育への理解・啓発においては、保護者の方々の肯定率がとても低くなりました。個々への対応は

しているものの、高井戸中全体への特別支援教育への理解・啓発に係る取組を意図的かつ計画的に行う必要があると考えられます。特別支援教室拠点校、きこえの教室設置校として、教員の専門性を生かし、障害に対する理解を深める情報提供がなされることを期待しています。

<改善を検討すること>

- ・学びの教室、きこえの教室の専門性を生かし、生徒及び保護者を対象とした理解・啓発授業を行うこと。
- ・意図的に機会をつくり、理解・啓発に係る情報を生徒及び保護者に提供すること。

(インクルーシブ教育)

【保護者】学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。

【教 員】生徒や保護者から障害等への合理的配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
86.2%	26.6%	15.9%	13.4%	30.1%	24.8%	25.4%

教員においては、障害等への理解や配慮については、当然行うべきこととして定着しているため肯定率は高くなりましたが、しかし、特別支援教室へ結び付けたり、教室内において可能な合理的配慮を行ったり、個別指導計画を作成したりして行う指導は、直接的に周囲の生徒や保護者にお知らせすることはできない内容が多いため、肯定的評価が低くなったと考えられます。

<改善を検討すること>

- ・学習や生活への困難さを抱えている場合は、いつでも学校に相談できることを保護者の方々へ丁寧に周知すること。

(特別支援教室の運営)

【保護者】特別支援教室で、子どもは能力や特性に応じた目標の設定や手だてにより、成長の可能性が広がっている。

【生 徒】特別支援教室の授業では、自分の得意な部分を伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるよう、先生が自分用の教材や教具を準備してくれている。

【教 員】個別指導計画に基づいて一人一人の障害特性に応じた学習目標と指導の手だてを設定し、確実に力を積み上げていくための授業を行っている。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
100%	100%	100%	50%	100%	75%	100%

【保護者】特別支援教室では、子ども個々に設定された学習目標の達成度合いについて、適正な評価を受けている。

【生 徒】特別支援教室の先生は、授業で自分ができたことを讃めてくれたり、間違えてところをおしえてくれたりしている。

【教 員】個別指導計画に基づく学習目標に応じた評価規準を設定し、学習状況を評価している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
100%	100%	100%	100%	100%	33%	100%

今年度は、特別支援教室の運営が組織的かつ計画的になるよう、運営面での改善を行いました。対象となる生徒の担当者を明確にし、保護者の方々の相談を受けやすいようにしました。本校の巡回指導員の巡回校の教員からの年度末反省における評価も、概ね9割前後の肯定的回答を得ることができます（「学びの教室の教員と専門員と学級担任の連携」「担当制の指導」「年間指導目標と毎日のめあてを設定した指導」「日誌ファイル形式の報告」等）。次年度に向けても、今年度の運営面の改善を継続実施することで、安定した運営につなげることを期待しています。

<改善を検討すること>

- ・特別支援教室の巡回指導教員の専門性を生かし、通常の学級の教員との連携を深め、特別な配慮を要する子どもたちへの丁寧な教育的配慮ができるようにすること。

(6) 教育環境の整備・・・自校の教育活動の関する評価結果と改善策の情報提供 「肯定的評価70%以上」

- ・学校運営協議会、学校支援本部、PTA等との連携、学校だより等の発行、学校ホームページによる積極的な情報発信

(学校評価)

【保護者】学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。

【教 員】学校の教育目標や目指す生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
86.2%	——%	——%	——%	43.9%	60.4%	50.8%

昨年度までは、「学校だより2月号その2」として生徒を通じて保護者の方々に周知していました。生徒を通じて配付する通知文等は、なかなか保護者の方々に届かないこともあるため、周知方法を工夫する必要があります。

<改善を検討すること>

- ・学校ホームページを活用し、評価結果とそれに基づく改善策等を情報提供すること。
- ・学校評価における質問内容を教員、生徒、保護者の三者でそろえること。

(情報発信)

【保護者】学校だより、学年通信、学校ホームページなどで、学校の様子がよく分かる。

【教 員】学校だより、学年通信、学校ホームページなどで、学校の様子を積極的に伝えている。

<肯定率>

教員	1年生:生徒	2年生:生徒	3年生:生徒	1年生:保護者	2年生:保護者	3年生:保護者
93.1%	59.4%	66.9%	54.5%	70.7%	79.2%	72.2%

昨年度までは学校ホームページの更新は、外部人材であるICTセンターが行っており、教職員が更新作業を行うことはなかったため更新回数も限られていました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対応として、学校ホームページを活用した情報発信は必須であり、プロジェクトチームを立ち上げ、更新できる環境を整え、7月以降は毎日学校ホームページが更新されています。肯定的評価の数値目標70%を超えたことは、成果として捉えることができます。

<改善を検討すること>

- ・学校での配付文書について、学校ホームページを活用したデジタル配信について検討・実施することで、保護者や地域の方々のホームページの閲覧回数を増やすこと。
- ・可能であれば、学校ホームページをスマートフォン対応版にし、見やすいホームページに刷新すること。

3 学校評価委員会の総合所見

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、予定していた教育活動の多くが中止や規模縮小をせざるを得ない状況となりました。また、学校公開や保護者会をはじめとして本校の教育活動の様子を、保護者の皆様に見ていただいたり、意見を交換したりする機会も例年に比べ極めて少ない状況となりました。そのため、杉並区教育評価においては、「回答不能」の割合は、学年が下がるごとに高くなる傾向が見られました。「教員」「生徒」「保護者」に対する学校独自の質問項目を見直し、同じ内容の質問に対する三者の意識を比較できるようにすることで、課題点や改善点をより明確にできると思われますので、今後の検討課題としてください。

次年度以降、新型コロナウイルス感染対策を講じながら教育活動を行っていくことを継続せざるを得ないことが予想できます。今年度、本校として取り組んだ学校における「新たな生活様式」について検証し、子どもたちの学びを保障するために何ができるのか、保護者の信頼を得るために何ができるのかを模索しつつ、工夫して教育活動が展開されることを期待しています。

学校関係者評価委員会 委員長 武井 宗義
委 員 内藤 裕義
委 員 吉田 寛
委 員 大橋 榮一
委 員 内藤 英夫
委 員 蓮沼由起子
委 員 奥山美奈子
委 員 唐澤佐千子
委 員 本郷 辰博
委 員 山添 要